

令和 7 年度豊能圏域在宅医療懇話会における主な意見（概要）

開催日時：11 月 14 日 場所：豊中市地域共生センター西館 3 階 大会議室

1 豊能圏域における連携の拠点等の取組状況について

- 豊中市・豊中市医師会では、令和 6 年 10 月に在宅医療連携会議を発足。通院困難時等の受入調整について議論している。医師会非会員も交え、在宅医療だけでなく病床機能も含めた視点で実施している。また、積極的医療機関に設置した停電時の非常用電源の貸出事業を実施している。
- 吹田市では、平成 27 年度から地域医療推進懇談会を継続して実施している。今年度、在宅医の連携基盤づくりのため、吹田市医師会と連携して在宅医交流会を初めて開催した。また、在宅医療患者の急変時対応に利用できる空床情報システムの構築を検討している。
- 池田市医師会では、令和 6 年度から連携の拠点事業を開始。市内に在宅医療機関が少なく、課題が多い。主に訪問診療医 1 人のため、長期休暇時の対応や 24 時間対応は外部委託していることが多い。病院と在宅医療機関との訪問診療連携について、在宅医療コーディネーターを介した連携システムを協議している。
- 箕面市医師会では、平成 17 年度から在宅医療における会議や研修を継続して実施している。毎年、市民公開講座を開催し、ACP について市民啓発を行っている。
- 積極的医療機関として、往診クリニックや施設と連携し、患者の急変時の対応や入院治療後に在宅へ戻すよう対応しているが、連携のない診療所等に高齢者肺炎などに対応できる病院機能が十分に周知されていない。特に、急変時に地域の急性期病院への紹介に偏っていることが課題と感じている。また、急性呼吸窮迫症候群等で急遽人工呼吸器が必要になった在宅患者への体制が不十分である。
- 病院においても、日ごろから在宅医と病院の連携が重要である。退院時に在宅医へ早期移行することを重視している。難病患者、特に、神経筋難病等の人工呼吸器患者では在宅医との連携が不可欠である。
- 歯科医師会では、在宅での口腔ケア推進のため、歯科衛生士派遣や研修、市民啓発、訪問歯科健診などを実施し、多職種連携強化を図っている。
- 薬剤師会では、在宅医療における多職種連携強化のため、市民向け講座や多職種向け研修、ICT 活用の検討、薬薬連携を進めている。
- 病院看護師が、在宅医療の現場を理解する機会がまだ十分でないと感じる。病院と在宅の連携強化のための教育・交流が必要である。

2 その他

【令和 8 年度以降の積極的医療機関リストの更新について】

事務局（豊中市保健所）から説明

意見なし

【豊能圏域救急 MC 協議会における ACP プロトコルの報告】

豊能圏域救急 MC 協議会「人生会議(ACP)に基づいた救急現場での心肺蘇生等の対応について」等の資料に基づき、吹田市保健所から説明

意見なし